

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年2月15日(火)

《出来る限り何でも覚えていきましょう -心に傷を残さないために-》

今日の福音(マルコ8:14-21)を読んで、二つのことが思い浮かびました。

一つは、『忘れること』についてです。『忘れること』は、よいことでしょうか、悪いことでしょうか。忘れたいこともあるし、忘れたくないこともあるでしょう。しかし専門家によりますと、どんなことも忘れてはいけないことなのだそうです。たとえば、誰かが大きな傷を受けて悩んでいる時、「忘れたほうがいいよ」と言ってあげるのは自然な対応でしょう。しかし、その人が本当に解放されるためには、忘れてはいけないのです。痛くても覚えていて、どうすればそこから立ち上がれるかをはっきりさせなければ、頭の中はいつまでも忘れられなくて、傷だらけなのです。もし皆様が他の人から「あなたは少し性格が変わっている」と言われるとしたら、それは間違えなく傷がそのまま残っているのだと思います。

世の中の人みんな天使のように立派な人格の人ばかりならば、たぶんこの世の中は住みやすくなるでしょう。しかし、それぞれの人の傷がぶつかりあうから、この世にいるのが嫌になるのは当然なのかもしれません。自分が誰かに否定的な反応を見せてしまい、それを反省する時には、なぜこのように敏感に反応したかについて、考えなければなりません。そうすれば、その敏感に反応したことが、自分の中に傷として隠れて存在していることがすぐに分かります。

そういう意味で、私たちはいろいろなことを、それがよいことか悪いことかに関係なく、出来る限り覚えておくべきなのです。しかし人間は、自分の勝手に、都合よく忘れてしまうことがよくあります。忘れることはすぐに癒される方法のように見えるかもしれませんが、それでは絶対に根本的な解決にはならないことを意識すべきです。

今日の福音で弟子たちが見せた振る舞いも全く同じでしょう。イエス様はつらい気持ちで、「まだ悟っていないのか。どうすればあなたたちに私の心をはっきり見せることができるのか。」という心の痛みを表現されています。今までの人生の中で、皆様にもイエス様がいろいろ触れられたことがあると思います。ある時には感動して、「イエス様、あなただけに従います。」という心を告白したこともあるのでしょうか。しかし、すぐに忘れてしまうのが、私たちの信仰の生活ではないのでしょうか。救われたことはすぐ忘れるのに、人に傷つけられたことはいつまでも覚えています。このような生き方では、絶対に福音的な喜びは得られないと思います。

今日の福音を通してもう一回考えてみましょう。何でも覚えているようにしましょう。可能な限り覚えていきましょう。それが、いろいろなことを乗り越えられる唯一の正しい方法ではないかと思いません。

二番目に思い浮かんだことです。「ファリサイ派の人々のパン種とヘロデのパン種によく気をつけな

さい」という言葉がありましたね。イエス様が律法学者やファリサイ派の人々に「駄目」と言われた根本的な理由は何なのか、考えてみました。

私には、最初なじめなかった日本の言葉があります。それは「固い信仰を与えてください」という表現です。『固い』ことをよい意味で使っていますよね。しかし私は、「深い信仰を与えてください」と願う方が、より福音的ではないかと思います。律法学者もファリサイ派の人々もサドカイ派の人々も、みんな同じ共通点があります。それは『固さ』です。自分たちなりに、『固く』信じてきた人たちです。自分が考えて、「正しい基準だ」と思ったら、その基準に外れた人をみんな責めようとする『固さ』です。私たちも自分の中をよく見てみれば、みんなこういう『固さ』を持っています。

私は皆様に、「今年は宣教の年にしましょう。」と強くお願いしました。しかし、宣教するためには、まず自分がどのように準備できているかを考えなければなりません。**準備された自分の中にもし『固さ』があれば、人に手を伸ばす前に、まず自分の『固さ』を柔らかくするべきです。**

私はいつも皆様に「人に手を伸ばしましょう。」とお願いしています。しかしその前に、何でも受け入れられる柔らかい心が必要だと思います。自分の基準で手を伸ばそうとすれば、気に入る人は一人も見つかりません。それは仕方ないことです。その人たちは、今までこのような生き方をして来なかったのです。それなのにもかかわらず、「これが正しいのに、なぜ従わないのですか。」という気持ちで近づこうとすれば、その人は絶対に福音の味を分らないでしょう。

ですから皆様にお願いします。**『固さ』は福音ではありません。イエス様も負けてあげたことはたくさんあります。福音は柔らかさと近いものなのです。責めるのではなく柔らかく、間違えたことを直すとしても柔らかく、できるだけ柔らかく近づくのです。そういう方法を選ぶことが一番正しいことだと思います。**

「私の基準は正義、正しさです。ですからこれに必ず合わせなければなりません。もし反対するならば、それは悪魔のいたずらです。」と極端な思いになる人がいます。しかしそれは神様を立てようとする姿ではありません。自分を立てよう、自分を強く守ろうとする愚かさに過ぎないと私は思います。

皆様、これからもいろいろな人に出会うことでしょう。特に信者でない人に出会う時、こういうことを意識してください。どこに行っても『固さ』が見られますが、私たちには要らないものです。

今渴いている人々は、「今までこういう場合には必ず叱られたのに、この人々は私を理解してくれた。」というような柔らかさを求めているのでしょうか。そういう意味でファリサイ派に似ている私たちにならないように、いつも気をつけなければならないと思います。

ありがとうございました。